

2009年9月

1. 新聞・テレビ等

2. 誌上発表(原著論文)

(薬品部)

- Sakamoto, T., Mizukai, K., Kawanishi, T., Hiyama, Y.

Real-time analysis for quality control of a reaction process using ultra-high performance liquid chromatography. reduction of phenyl ketone to phenyl alcohol
(超高速液体クロマトグラフィーを用いた反応工程のリアルタイム解析 -フェニルケトンからフェニルエタノールへの還元反応)

J. Pharm. Innov., 4, 115-120 (2009)

超高速液体クロマトグラフィー(UHPLC)を用いた水素添加還元反応工程のリアルタイム解析への適用性を検討した。原料, 生成物は1分以内, また計9種類の不純物の同時検出が可能であり, 最短5分間隔での反応液の解析が達成された。以上の結果からUHPLCの合成工程モニタリングツールとしての有用性を示すことができた。

(生物薬品部)

- 梶 直孝*, 木下充弘*, 川崎ナナ, 山口照英, 早川堯夫*, 掛樋一晃*

*近畿大学

日本薬局方医薬品各条へパリンナトリウム純度試験へのキャピラリー電気泳動法の適用について

薬学雑誌, 129(10), 1255-1264 (2009)

主に米国で発生した過硫酸化コンドロイチン硫酸(OSCS)混入へパリンナトリウムによる有害事象への対応として, 日本薬局方医薬品各条へパリンナトリウムの改訂が検討されている。本研究では, キャピラリー電気泳動法がOSCS及びデルマタン硫酸エステル純度試験として適用可能であることを示した。

(食品部)

- Miyahara, M., Furuta, M.^{*1}, Takekawa, T.^{*2}, Koshikawa, T.^{*3}, Oda, S.^{*4}, Akiba, T.^{*5}, Mori, T.^{*6}, Mimura, T.^{*7}, Sawada, C.^{*8}, Yamaguchi, T.^{*9}, Nishioka, S.^{*10}, Tada, M.^{*11}

^{*1} 大阪府立大学, ^{*2} 原子燃料工業株式会社, ^{*3} 日本ラジオアイソトープ協会, ^{*4} 日本食品分析センター, ^{*5} 日本食品衛生協会, ^{*6} 東京顕微鏡院, ^{*7} 油糧検定協会, ^{*8} 日本冷凍食品検査協会, ^{*9} 日本電子照射サービス株式会社, ^{*10} マイコキシ菌検査協会, ^{*11} 中国学園大学

Verification of the new detection method for irradiated spices based on microbial survival by collaborative blind trial(未知試料中の生残菌に基づく照射香辛料検知法に関する共同研究による評価)

Radiation Physics and Chemistry, 78, 699-701 (2009)

均一な未知試料中の生残菌を調べて, 照射香辛料(5種)の検知を行う方法に関する共同研究(11機関)をおこない, それを評価した。試料数は一水準あたり5個とした。7K Gy照射では99%の正解率であった。

(食品添加物部)

- 大槻 崇, 久保田浩樹, 佐藤恭子, 河村葉子

アセトニトリル不足に対応したtert-ブチルヒドロキノン試験法におけるメタノールの適用性

日本食品化学学会誌, 16(2), 66-71 (2009)

世界的な景気後退によるアセトニトリルの供給量の減少に対応するため、tert-ブチルヒドロキノン通知法におけるアセトニトリルの代替溶媒としてのメタノールの適用性について検討し、通知法にほぼ準じた操作で良好な回収率、定量再現性が得られることを明らかにした。

- Tatebe, C., Kawasaki, H., Kubota, H., Sato, K., Tanamoto, K., Kawamura, Y.

Analysis of residual solvent in thickeners by headspace gas chromatography using a standard addition method (標準添加法を用いたヘッドスペースガスクロマトグラフィーによる増粘安定剤中の残留溶媒の分析)

日本食品化学学会誌, 16(2), 78-83 (2009)

本研究では、増粘安定剤(カロブベーンガム, グアーガム, ジェランガム)中のメタノールおよび2-プロパノールについて、標準添加法を用いたHS-GC法および蒸留-GC法により分析し、両方法で得られる溶媒量の比較検討を行った。その結果、HS-GC法と蒸留-GC法ではほぼ同程度の溶媒量が検出された。

- 多田敦子, 杉本直樹, 古庄紀子, 石附京子, 佐藤恭子, 山崎 壮, 棚元憲一

既存添加物オゾケライトの成分調査

日本食品化学学会誌, 16(2), 92-96 (2009)

既存添加物オゾケライトの国内流通製品をGC/MSで分析した結果、主にC22~C38の飽和炭化水素群が検出され、微量ながらC39~C58も検出された。既存添加物名簿収載品目リストの記載より低炭素数側に分布していた。GC/FIDにより定量したところ、C22~C38の主要飽和炭化水素は合計81%であった。

- 六鹿元雄, 李演揆, 河村葉子, 棚元憲一

紙製品中の芳香族第一級アミン類の分析

食品衛生学雑誌, 50(4), 160-166 (2009)

紙製品中の芳香族第一級アミン類25種類およびそれらを生成するアゾ色素類の高感度分析法を確立した。原紙17試料および食品用紙製品16試料の分析を行ったところ、大部分の再生紙試料からアニリンが4~20 μ g/kg検出されたが、それ以外のアミン類はいずれの試料からも検出されなかった。

(衛生微生物部)

- Tanaka, H., Takino, M. ^{*1}, Sugita-Konishi, Y., Tanaka, T. ^{*2}, Toriba, A. ^{*4}, Hayakawa, K. ^{*3}

^{*1}アジレント・テクノロジー(株) ^{*2}神戸市環境保健研究所 ^{*3}金沢大学医薬保健研究域

Determination of nivalenol and deoxynivalenol by liquid chromatography/atmospheric pressure photoionization mass spectrometry. Rapid Commun Mass Spectrom. (APPIによるニバレノールおよびデオキシニバレノールの分析)

Rapid Communication in Mass spectrometry, 23(19),3119-24 (2009)

小麦を汚染するカビ毒であるデオキシニバレノールとニバレノールについて、APPIによるイオン化によるLC/MS/MS一斉分析法を開発した。

(有機化学部)

- Honzawa, S. ^{*1}, Takahashi, N. ^{*1}, Yamashita, A. ^{*1}, Sugiura, T. ^{*1}, Kurihara, M., Arai, A., M. ^{*1}, Kato, S. ^{*2}, Kittaka, A. ^{*1}

^{*1}帝京大薬, ^{*2}東大分生研

Synthesis of a 1 α -C-methyl analogue of 25-hydroxyvitamin D₃: interaction with a mutant vitamin D receptor Arg274Leu (1 α -C-メチル-25-ヒドロキシビタミンD₃アナログと変異Dレセプターの相互作用)

Tetrahedron, 65(34), 7135-7145(2009)

1 α -C-メチル-25-ヒドロキシビタミンD₃アナログを合成し、遺伝的くる病の原因である変異VDRとの相互作用を調べた。その結果、天然リガンドである活性型ビタミンD₃より数倍転写活性が強かった。

(代謝生化学部)

- Harikai, N.^{*1}, Saito, S.^{*1}, Abe, M.^{*1}, Kondo, K., Kitta, K.^{*2}, Akiyama, H., Teshima, R., Kinoshita, K.^{*1}

^{*1}武庫川女子大学, ^{*2}食品総合研究所

Optical detection of specific genes for genetically modified soybean and maize using multiplex PCR coupled with primer extension on a plastic plate. (プラスチック基板上におけるプライマー伸長反応を用いた遺伝子組換え食品の同時可視検出法)

Biosci. Biotechnol. Biochem., 73,1886-1889(2009)

遺伝子組換え大豆1種並びにとうもろこし5品種につき, プラスチック基板上におけるプライマー伸長反応を用いた遺伝子組換え食品の同時可視検出法を開発した。

(安全情報部)

- Morita, T., Hayashi, M.^{*1}, Nakajima, M.^{*1}, Tanaka, N.^{*2}, Tweats, D.J.^{*3}, Morikawa, K., Sofuni, T.^{*4}

^{*1}安評センター, ^{*2}食薬センター, ^{*3}スワンシー大学, ^{*4}元国立衛研

Practical Issues on the application of the GHS classification criteria for germ cell mutagens (生殖細胞変異原物質のGHS分類基準の適用に関する実務的問題点)

Regulatory Toxicology and Pharmacology, 55, 52-68 (2009)

本邦における約1400物質のGHS分類プロジェクトのために, 生殖細胞変異原性についてフローを含む分類ガイダンスを作成した. プロジェクトにおける分類結果を検証し, ガイダンスの有効性を精査した. 分類実施におけるいくつかの問題点が明らかとなり, その対応について考察・提案した。

(病理部)

- Ishii, Y., Okamura, T., Inoue, T., Tasaki, M., Umeura, T., Nishikawa, A.

Dietary catechol causes increased oxidative DNA damage in the livers of mice treated with acetaminophen (カテコールが引き起こすアセトアミノフェンを処置したマウス肝臓における酸化ストレス)

Toxicology, 263, 93-99 (2009)

アセトアミノフェン投与により誘発される肝炎モデルを用いてカテコール摂取の影響を検討した結果, カテコールの摂取が炎症の程度に影響を及ぼさなかったのに対し, 肝DNA中8-OHdGレベルの有意な上昇を引き起こしたことから, 肝臓の炎症下におけるカテコールの摂取が酸化的ストレスを引き起こすことを明らかにした。

- Jin, M., Dewa, Y.^{*1}, Kawai, M.^{*2}, Nishimura, J.^{*1}, Saegusa, Y.^{*2}, Kemmochi, S.^{*2}, Harada, T.^{*1}, Shibutani, M.^{*1}, Mitsumori, K.^{*1}

^{*1}東京農工大学, ^{*2}岐阜大学大学院

Induction of liver preneoplastic foci in F344 rats subjected to 28-day oral administration of diheptyl phthalate and its in vivo genotoxic potential (フタル酸ジヘプチルの28日間経口投与によるF344ラットの肝前がん病変誘発とそのin vivo遺伝毒性の潜在性)

Toxicology, 264, 16-25 (2009)

diheptyl phthalate (DHP) の肝臓を標的とした遺伝毒性または発がん性を明らかにするためにin vivo遺伝毒性試験と28日間反復毒性試験を行った. その結果, DHPは今まで遺伝毒性発がん物質ではないとされてきたが, 遺伝毒性発がん物質である可能性が示唆された。

(変異遺伝部)

- Fukuda, H.^{*1}, Takamura-Enya, T.^{*2}, Masuda, Y.^{*3}, Nohmi, T., Seki, C.^{*1}, Kamiya, K.^{*3}, Sugimura, T.^{*1}, Masutani, C.^{*4}, Hanaoka, F.^{*4}, Nakagama, H.^{*1}

^{*1}国立がんセンター研究所, ^{*2}神奈川工科大学, ^{*3}広島大学, ^{*4}大阪大学

Translesional DNA synthesis through a C8-guanyl adduct of 2-amino-1-methyl-6-phenylimidazo[4,5-b]pyridine (PhIP) in Vitro: REV1 inserts dC opposite the lesion, and DNA polymerase kappa potentially catalyzes extension reaction from the 3'-dC terminus (PhIPのC8位付加体のIn vitroでの損傷乗り越えDNA合成:REV1は損傷部位にCを挿入し, DNAポリメラーゼ κ がそのCからの伸長反応を触媒する)

J. Biol. Chem., 284, 25585-25592 (2009)

調理食品に含まれるがん原物質PhIPのグアニンC8位の付加体の乗り越え合成を試験管内で行ったところ, Y-ファミリーDNAポリメラーゼのうちpol η , pol κ , REV1が向かいにシトシンを取り込んで乗り越えた. pol κ はさらにそこから伸長反応も行った.

- Yamada, M., Matsui, K., Katafuchi, A., Takamune, M., Nohmi, T.

Development of tester strains deficient in Nth/Nei DNA glycosylases to selectively detect the mutagenicity of oxidized DNA pyrimidines (酸化DNAピリミジンの変異原生を選択的に検出するNth/Nei DNAグリコシラーゼ欠損試験菌株の開発)

Genes and Environ., 31(3), 69-79 (2009)

Ames試験に汎用されるTA1535株を元に, ピリミジン酸化損傷の修復酵素Nei/Nth DNAグリコシラーゼを欠損させた株を作成し, YG3206とした. システイン, ドーパミンなどは, 親株やプリン酸化損傷の修復酵素欠損株では見られなかった, 用量依存的な復帰変異株数の増加が, YG3206で観察された.

- Salem, A. M.^{*}, Nakano, T.^{*}, Takuwa, M.^{*}, Matoba, N.^{*}, Tsuboi, T.^{*}, Terato, H.^{*}, Yamamoto, K.^{*}, Yamada, M., Nohmi, T., Ide, H.^{*}

^{*}広島大学

Genetic analysis of repair and damage tolerance mechanisms for DNA-protein cross-links in Escherichia coli (大腸菌におけるDNAと蛋白質のクロスリンクに対する修復と損傷耐性のメカニズムの遺伝的解析)

J. Bacteriol., 191, 5657-5568 (2009)

DNAと蛋白質のクロスリンク(DPC)が細胞内で処理されるメカニズムを解明するために, 各種修復系を欠損させた大腸菌のホルムアルデヒド等のDPC誘発試薬に対する感受性を調べた. DPCによる細胞致死作用の防御機構としては相同的組換えとそれに続く複製再開が最も効果的であることが示された.

- Totsuka, Y.^{*1}, Higuchi, T.^{*1}, Imai, T.^{*1}, Nishikawa, A., Nohmi, T., Kato, T.^{*2}, Masuda, S.^{*2}, Kinae, N.^{*2}, Hiyoshi, K.^{*2}, Ogo, S.^{*3}, Kawanishi, M.^{*3}, Yagi, T.^{*3}, Ichinose, T.^{*4}, Fukumori, N.^{*5}, Watanabe, M.^{*6}, Sugimura, T.^{*1}, Wakabayashi, K.^{*1}

^{*1}国立がんセンター研究所, ^{*2}静岡県立大学, ^{*3}大阪府立大学, ^{*4}大分県立看護科学大学, ^{*5}東京都健康安全研究センター, ^{*6}横浜国立大学

Genotoxicity of nano/microparticles in in vitro micronuclei, in vivo comet and mutation assay systems (ナノ, ミクロ粒子のin vivo小核, in vivoコメットおよび突然変異分析系における遺伝毒性)

Particle and Fibre Toxicology, 6, 23 (2009)

ナノマテリアルであるフラーレン, カーボンブラック, カオリンのヒトに対する影響を調べるために, ヒト肺がんの培養細胞を用いてin vitroの小核試験を, gpt deltaトランスジェニックマウスを用いてin vivo遺伝毒性試験を実施した. 結果はいずれも陽性で当該物質の遺伝毒性が示された.

3. 誌上発表(総説・解説等)

(薬品部)

- Ando, T.^{*}, Hiyama, Y., Matsuda, Y.^{*}, Nakanishi, T.^{*}, Okuda, H.

^{*}医薬品医療機器総合機構

Inside ICH-MHLW, working groups ramp up quality -based implementation (厚生労働省からのICH報告, 品質ガイドラインの実践導入作業について)

Pharmaceutical Technology, 33(9), 72 (2009)

6月の医薬品規制国際調和専門家会議(ICH)の概略を述べた。ICH Q8, Q9, Q10の導入作業部会(Q-IWG)は40のQ&Aを発行した。2010年には3つのICH地域で教育ワークショップを開催する。又、原薬の製造法開発のQ11は来年夏の合意をめざす。厚生労働省は、Q11により、原薬の情報共有が企業と行政だけでなく、企業間においても改善されることを期待する。

(生物薬品部)

- 川崎ナナ

バイオ医薬品の開発と品質評価の課題

Pharmstage, 9, 1-4 (2009)

最近のバイオ医薬品開発の傾向を紹介するとともに、品質評価における課題について概説した。

- 山口照英

バイオ後続品の品質・安全性・有効性確保の観点

Pharm. Tech. Japan, 25, 1243-1250 (2009)

バイオ後続品開発において、品質・安全性・有効性を確保するためのポイントなる点について概説した。

- Niimi, S., Harashima, M. *, Hyuga, M.

* 日本大学総合研究所

Current status of therapeutic angiogenesis with protein, gene and cell therapy (タンパク質, 遺伝子および細胞治療を用いた血管新生治療の現状)

Current Drug Therapy, 4, 221-233 (2009)

組織の虚血を補うために新しい血管の成長を促進させる血管新生治療の臨床試験が各種の虚血性血管疾患の患者で行われている。これらの臨床試験には細胞治療, 増殖因子のタンパク質および遺伝子治療が含まれる。本総説ではこれらの治療を用いた臨床試験の現状と克服すべき問題点について概説する。

(有機化学部)

- 奥田晴宏, 宮田直樹*

* 名古屋市立大学大学院

ステムを知れば薬がわかる 第37回

Pharm. Tech. Japan, 25(9), 1867-1875 (2009)

プレドニゾン/プレドニゾン誘導体を示すステムとして「(-)pred-」, 「-metasone, -methasone」, 「-betasol」を, ステロイド誘導体医薬品を示すステムとして「-olone」を, 局所適用のアセタール基をもつステロイド類を示すステムとして「-onide」を紹介した。

(総合評価研究室)

- 広瀬明彦

化学物質の健康影響に関する基準値等の設定方法と最近の国際動向

日本保健物理学会, 44(3), 296-305 (2009)

主に環境汚染化学物質の健康影響に対する安全性評価に関して、「有害性評価」, 「用量反応性評価」, 「暴露評価」, 「リスク判定」の4つのフレームからなる化学物質の安全性評価手法の概要と最近の国際動向についての解説を行った。

4. 単行本

(副所長)

- 大野泰雄

非臨床試験をめぐる新たな流れ -JaCVAMの活動を中心に-, “医薬品GLPガイドブック 2009”

薬事日報社, 東京, p6-31(2009)

動物実験代替法に関する我が国内外の情勢とともに, 国立衛研に設立されたJaCVAMについて解説した.

(有機化学部)

- 奥田晴宏

医薬品評価概説

東京化学同人, 東京, pp 9-48 (2009)

第1章では医薬品品質保証の基本的な概念と最近の国際動向を, 第2章では化学薬品の原薬および製剤に関して, 具体的な品質評価方法に関して論じた.

(安全情報部)

- Satoh, T., Morita, T.

**Information Resources in Toxicology, 4th Edition (Ed. Philip Wexler)
(毒性学における情報ソース, 第4版)**

Academic Press (Elsevier), US, pp.991-1011(2009)

第95章において, 日本における種々の毒性関連情報ソースを紹介, 解説した.

5. 学会・講演等

(副所長)

- Ohno, Y.

Introduction of JSAAE and JaCVAM and its international cooperation with the other VAMs. (日本動物実験代替法学会とJaCVAMの紹介と他の代替法センターとの国際協力について)

ASIATOX-V. (2009.9)(中華民国, 台北)

- Ohno, Y.

Accreditation of animal experiments by Japan Health Science Foundation (JHSF)

7th World Congress on Alternatives to Animal Experiments in life Sciences. (2009.8)
(ローマ, イタリア)

(薬品部)

- 加藤くみ子, 石倉恵子, 鈴木琢雄, 石井明子, 山口照英, 川西 徹

ナノ粒子DDS製剤の細胞内動態可視化に関する基礎的研究

第18回日本バイオイメーjing学会学術集会 (2009.9) (岡山)

- 坂本知昭, 田邊匡生^{*1}, 佐々木哲朗^{*2}, 小山 裕^{*1}, 西澤潤一^{*2}, 川西 徹, 檜山行雄

^{*1}東北大学大学院, ^{*2}上智大学

テラヘルツ波を用いた医薬品評価技術の開発に関する研究III. 構造異性とテラヘルツスペクトル

日本分析化学会第58年会 (2009.9) (札幌)

- 四方田千佳子

Dissolution testing and application in Japan (日本における溶出試験とその応用)

FIP2009 (2009.9) (イスタンブール, トルコ共和国)

我が国における溶出試験の生物学的同等性試験への活用の仕方の独自性, 及び品質再評価について概説した.

(生物薬品部)

- 森瀬譲二^{*1}, 木塚康彦^{*2}, 森田一平^{*2}, 殿山泰弘^{*1}, 橋井則貴, 川崎ナナ, 岡 昌吾^{*1}
^{*1}京大院・医, ^{*2}京大院・薬

Phosphacan上に存在するHNK-1糖鎖に関する研究

日本糖質学会(2009. 9)(岐阜)

- 小川温子^{*1}, 中村公亮^{*1}, 大槻貴博^{*2}, 星野洪郎^{*2}, 棚元憲一, 牛島廣治^{*3}, 川崎ナナ, 橋井則貴, 坂上ひろみ^{*1}

^{*1}お茶大・院・糖鎖センター, ^{*2}群大・院・医, ^{*3}藍野大・健康科学センター

HIV感染阻害活性を示す非硫酸化シュードプロテオグリカンの合成と性質

日本糖質学会(2009.9)(岐阜)

- 山口照英

**Japanese Regulatory Aspects on Quality, Safety and Efficacy of Follow-on Biologics.
(バイオ後続品の品質, 安全性, 有効性確保における日本の考え方)**

DIA Biosimilar Workshop (2009.9.) (イギリス, ロンドン)

バイオ後続品の品質・安全性・有効性確保に関する日本の考え方について, 本年3月に発出されたガイドラインの内容を中心に概説した.

(生薬部)

- 山下和秀*, 関俊哲*, 豊岡利正*, 稲垣真輔*, 花尻瑠理, 合田幸広
^{*}静岡県立大薬

HPLC-電気化学検出法を用いたデザイナードラッグの簡便かつ高感度な分析法の開発

日本分析化学会第58年会(2009.9)(札幌)

- 袴塚高志

新210処方について

社団法人 東京薬事協会 日本漢方生薬製剤協会 行政・学術講演会(2009.9)(東京)

薬食審査発第0930001号通知(一般用漢方製剤承認基準の制定について)の発出に至る経緯の解説

(遺伝子細胞医薬部)

- 鈴木孝昌

Genomic and Proteomic Approach in Toxicology (毒性学におけるゲノミクスおよびプロテオミクスのアプローチ)

International Conference on Environment, Occupational & Lifestyle Concerns(2009.9)
(Bangalore, India)

環境及び職業と生活習慣における諸懸念に関する国際会議(2009.9)(インド, バンガロール)

- 鈴木孝昌

Proteomics approach to find new biomarkers for toxicity (プロテオミクスを用いた毒性の新しいバイオマーカー検索のアプローチ)

International Conference on Molecular Tools in Environmental Toxicology(2009.9)
(Nagpur, India)

環境毒性学における分子手法に関する国際会議(2009.9)(インド, ナグプール)

(療薬部)

- 細渕和成*, 長谷川千恵, 齋島由二

* 東京都立産業技術研究所

ヒト細胞を用いた発熱性物質試験法とエンドトキシン試験法の比較検討
第36回日本防菌防黴学会(2009.9)(大阪)

- 迫田秀行, 土屋利江*

*大阪大学医学部附属病院未来医療センター

ガンマ線照射と熱処理がUHMWPEの疲労特性に与える影響

日本機械学会2009年度年次大会(2009.9)(盛岡)

(環境衛生化学部)

- Sugimoto, N., Tada, A., Sato, K., Suematsu, T.*¹, Arifuku, K.*¹, Saito, T.*², Ihara, T.*², Yoshida, Y.*³, Kubota, R., Yamazaki, T., Kawamura, Y., Nishimura, T.

*¹ 日本電子, *² 産総研計測標準, *³ 和光純薬

Application of quantitative nuclear magnetic resonance spectroscopy to determination of the contents of synthetic food colors. (定量核磁気共鳴法による食用合成色素の含量決定)

123rd AOAC Annual Meeting & Exposition (2009.9)(Philadelphia, U.S.A.)

- 杉本直樹

こんなに違うNMRでの定量分析

東京コンファレンス2009

(2009.9)(東京)

「クロマトグラフ法とNMRの違いと関係」, 「NMRによる校正・定量技術とは?」, 「NMRの利点と欠点」等の基本的な概念について, 専門的なことを可能な限り排除して初心者にも分かりやすく説明した。

(食品部)

- 越川富比古*¹, 武川哲也*², 宮原 誠

*¹日本アイソトープ協会甲賀研究所, *²原子燃料工業株式会社

香辛料の微生物学的検知(同定法)の開発

日本防菌防黴会第36年会(2009.9)(吹田)

- Watanabe, T., Takatsuki, S., Tsukakoshi, Y.*¹, Matsuda, R.

* 食品総合研究所

Estimation of uncertainty arising from sampling in the case of residual levels of pesticides in fresh vegetables (生鮮野菜に残留する農薬分析におけるサンプリングに起因する不確かさの推定)

The 123rd AOAC Annual Meeting & Exposition (2009.9)(Philadelphia, U.S.A.)

(食品添加物部)

- Kubota, H., Sato, K., Tanamoto, K.*¹, Kawamura, Y.

*武蔵野大学

Formation of aldehydes in fresh-cut vegetables treated with sodium hypochlorite and sodium chlorite (カット野菜の次亜塩素酸及び亜塩素酸ナトリウム処理によるアルデヒドの生成)

The 123rd AOAC Annual Meetings & Exposition(2009.9)(Philadelphia, U.S.A.)

- Akiyama, T., Sasaki, R.*¹, Yamagata, K.*¹, Tanamoto, K.*², Yamazaki, T., Kawamura, Y.

*¹ 日本大学, *² 武蔵野大学

Identification of origins of food manufacturing enzymes. (食品製造用酵素の基原の同定)

The 123rd AOAC Annual Meetings & Exposition(2009.9)(Philadelphia, U.S.A.)

- Tada, A., Sugimoto, N., Takahashi, K., Ishizuki, K., Suematsu, T. *¹, Arifuku, K. *¹, Saito, T. *², Ihara, T. *², Yoshida, Y. *³, Yamazaki, T., Nishimura, T., Kawamura, Y.

*¹日本電子株式会社, *²独立行政法人産業技術総合研究所, *³和光純薬工業株式会社

Determination of the contents of quercetin glycosides in natural food additives by quantitative nuclear magnetic resonance spectroscopy (定量NMR法による天然食品添加物中のケルセチン配糖体の定量)

The 123rd AOAC Annual Meetings & Exposition (2009.9) (Philadelphia, U.S.A.)

(食品衛生管理部)

- 鈴木穂高

小腸, 盲腸, 結腸に分布する腸上皮細胞間リンパ球(IEL) subsetの違い

第148回日本獣医学会 (2009.9) (鳥取)

- 岡田由美子, 小沼博隆 *¹, 五十君静信, 豊留達郎 *², 澤田千尋 *², 竹村 墨 *², 長田共未 *², 田中廣行 *³, 宇田川藤江 *³, 小澤一弘 *⁴, 三輪憲永 *⁵, 増田高志 *⁶, 飯田奈都子 *⁶, 春日文子

*¹東海大学海洋学部, *²財団法人日本冷凍食品検査協会, *³財団法人日本食品分析センター, *⁴株式会社中部衛生検査センター, *⁵東海大学短期大学部, *⁶静岡県環境衛生科学研究所

冷凍状態で流通される食品の微生物汚染実態調査

第148回日本獣医学会学術総会 (2009.9) (鳥取)

- Asakura, H., Churin, Y. *, Bauer, B. *, Bartfeld, S. *, Jungblut, P. R. *, Meyer, T. F. *

*Max Planck Institute for Infection Biology

Disruption of HP0518 gene in Helicobacter pylori increases the bacterial motility and flagellar glycosylation (HP0518遺伝子欠損は、ヘリコバクター・ピロリの運動性と鞭毛グリコシル化を亢進する)

15th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter, and related organisms (2009.9) (Niigata)

- Igimi, S., Ishiwa, A. *¹, Yamasaki, M. *², Okada, Y., Monden, S., Asakura, H., Yamamoto, S.

*¹国立感染研, *²微生物化学研究会

Antimicrobial resistance and genotyping of the pulsed-field gel electrophoresis of campylobacter jejuni isolated from bovine and poultry (ウシ及び鶏肉から分離されたカンピロバクター分離株の抗生物質耐性状況とPFGEによる遺伝子型分析)

15th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter and related Organisms (2009.9) (Niigata)

- 五十君静信

食肉・食鳥肉の細菌制御

平成21年度と畜検査員研修会 (2009.9) (宇都宮)

食肉・食鳥肉の細菌制御に関する最新の情報提供を行った。

(衛生微生物部)

- 渡辺麻衣子, 正木宏幸 *¹, 森 哲也 *², 土屋 禎 *³, 小沼博隆 *⁴, 工藤由起子, 小西良子, 高鳥浩介 *⁵

*¹埼玉県衛生研究所, *²財団法人東京顕微鏡院, *³財団法人日本食品分析センター, *⁴東海大学, *⁵NPO法人カビ相談センター

ミネラルウォーター中の酵母およびカビに対する紫外線照射およびオゾン処理による殺菌効果

第36回日本防菌防黴学会年次大会 (2009.9) (大阪)

- 小沼ルミ^{*1}, 渡辺麻衣子, 工藤由起子, 小西良子, 瓦田研介^{*1}, 高鳥浩介^{*2}
^{*1}地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター, ^{*2}NPO法人カビ相談センター
流動パラフィン重層法による糸状菌の長期保存に関する検討
第36回日本防菌防黴学会年次大会(2009.9)(大阪)

- Sugiyama, K., Narui, T.^{*}, Kamata, Y., Kobayashi, K.^{*}, Tadokoro, T.^{*}, Sugita-Konishi, Y.,

^{*}東京農業大学

Effects of epigallocatechin gallate on cytotoxicity induced by deoxynivalenol in mouse cultural macrophages (マウス培養マクロファージにおけるデオキシニバレノール誘導性細胞毒性に対するエピガロカテキンガレートの効果)

ISM conference 2009 (2009.9) (Tulln, Austria)

- Tamura, C., Nakamura, M.^{*1}, Kadota, T.^{*2}, Itoh, S.^{*3}, Kamata, Y., Sugiyama, K., Nishijima, N.^{*4}, Sugita-Konishi, Y.

^{*1}三栄源エフ・エフ・アイ(株), ^{*2}キリンホールディングス(株), ^{*3}麻布大学獣医学部, ^{*4}実践女子大学生生活科学部

Sealing effects of pectin gelation on mycotoxin reduction in food (食品中カビ毒減衰に対するのペクチンの封入効果)

ISM conference 2009 (2009.9) (Tulln, Austria)

- Poapolathep, A.^{*1}, Poapolathep, S.^{*1}, Sugita-Konishi, Y., Wongpanit, K.^{*1}, Machii, K., Itoh, Y., Kumagai, S.^{*2}

^{*1}カセサート大学獣医学部, ^{*2}東京大学大学院農学生命科学研究科

The effect of naringenin on the fate and disposition of deoxynivalenol in piglets (デオキシニバレノール解毒に対するナリンゲリンの影響)

ISM conference 2009 (2009.9) (Tulln, Austria)

(有機化学部)

- 今井耕平^{*}, 中村朝夫^{*}, 奥田晴宏, 福原潔

^{*}芝浦工大院工

ヒドラゾン結合を有するポルフィリン誘導体の合成

2009年光化学討論会(2009.9)(桐生)

- Kakuda, S.^{*}, Takagi, K.^{*}, Chida, T.^{*}, Okada, K.^{*}, Eguchi, H.^{*}, Takenouchi, K.^{*}, Hakamata, W., Kurihara, M., Takimoto-Kamimura, M.^{*}, Harada, Y.^{*}, Azuma, Y.^{*}

^{*}帝人ファーマ生医研

In vitro and In vivo Characterization of Nonsecosteroidal Vitamin D3 Analogue YR301 and its Crystal Structure Complexed with the Rat VDR (ノンセコステロイド型VDRリガンドYR301の生物活性とX線構造解析)

ASBMR 31th Annual Meeting (2009.9) (Denver, U.S.A.)

(代謝生化学部)

- Akiyama, H., Ohgiya, Y.^{*1}, Arakawa, F.^{*2}, Yoshioka, Y.^{*3}, Hayashi, Y., Sakai, S., Ito, S.^{*2}, Yamakawa, Y.^{*4}, Ohgiya, S.^{*5}, Ikezawa, Z.^{*6}, Teshima, R.

^{*1}札幌市衛生研究所, ^{*2}三栄源エフ・エフ・アイ株式会社, ^{*3}大阪大学大学院薬学研究科, ^{*4}山川皮ふ科, ^{*5}産業技術総合研究所, ^{*6}横浜市立大学大学院医学研究科皮膚科

Molecular cloning and characterization of a major 38 kDa cochineal allergen (主要38kDアレルゲンのクローニングと解析)

The 123rd AOAC Annual Meetings & Exposition (2009.9) (Philadelphia, U.S.A.)

- Adachi, R., Sakai, S., Akiyama, H., Teshima, R., Taguchi, H.^{*1}, Watanabe, S.^{*1}, Hirao, T.^{*1}, Urisu, A.^{*2}

*¹House Foods Corporation, *²Fujita Health University

Interlaboratory validation of PCR methods for the detection of shrimp and crab in processed foods (加工食品中のエビ・カニを検出するPCR法の多機関バリデーション)

The 123rd AOAC Annual Meetings & Exposition (2009.9) (Philadelphia, U.S.A.)

○ 手島玲子

遺伝子組換え食品の安全性評価

日本植物学会第73回大会特別企画シンポジウム「遺伝子組換え植物研究の現状と課題」(2009.9)(山形)

遺伝子組換え植物研究に関する我が国の現状と課題について、その現状把握、研究環境整備、社会受容を促進するための具体的方策等について考えるシンポジウムにおいて遺伝子組換え食品の安全性評価と展望について講演を行った。

○ 手島玲子

食物アレルギーと交差反応性

第70回小児アレルギー同好会 (2009.9) (東京)

「アレルギーの姿を探る」ということをテーマにして行われた第70回小児アレルギー同好会において、食物アレルギーの特性並びに交差反応性について講演を行った。

(安全情報部)

○ Kubota, K.

Symposium: Estimating the burden of diarrheal diseases in Miyagi prefecture, Japan (シンポジウム:宮城県における下痢症被害実態の推定)

15th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter and Related Organisms (Niigata) (2009.9)

宮城県におけるカンピロバクター、サルモネラ、腸炎ビブリオの下痢症被害実態推定研究を例とした被害実態推定のための各種手法の紹介。

(医薬安全科学部)

○ 望月祐志^{*1}, 中野達也, 山下勝美^{*2}, 沖山佳生^{*3}, 福澤 薫^{*4}, 田中成典^{*5}

^{*1}立教大学, ^{*2}NECソフト, ^{*3}東京大学, ^{*4}みずほ情報総研, ^{*5}神戸大学

次世代FMO法のための相関計算プログラムの開発

第3回分子科学討論会(2009.9)(名古屋)

○ 古明地勇人^{*1}, 中野達也, 望月祐志^{*2}

^{*1}産総研, ^{*2}立教大学

FMO-MD法の改良:動的フラグメント分割と三体項

第3回分子科学討論会(2009.9)(名古屋)

○ 日野 理^{*}, 小林将人^{*}, 長谷川浩司^{*}, 中野達也

^{*}アドバンスソフト

FMO-DFT計算における不安定性の改善

第3回分子科学討論会(2009.9)(名古屋)

○ 沖山佳生^{*1}, 中野達也, 山下勝美^{*2}, 望月祐志^{*3}, 田中成典^{*4}

^{*1}東京大学, ^{*2}NECソフト, ^{*3}立教大学, ^{*4}神戸大学

フラグメント分子軌道法におけるコレスキー分解を用いた積分近似の適用

第3回分子科学討論会(2009.9)(名古屋)

○ 藤原崇幸^{*1}, 森 寛敏^{*2}, 古明地勇人^{*3}, 中野達也, 望月祐志^{*1}, 三好永作^{*4}

^{*1}立教大学, ^{*2}お茶大, ^{*3}産総研, ^{*4}九州大学

3体補正を導入した3価のランタンイオン水和系のFMO-MDシミュレーション

第3回分子科学討論会(2009.9)(名古屋)

○ 田口尚貴^{*1}, 望月祐志^{*1}, 中野達也, 山下勝美^{*2}, 田中成典^{*3}

^{*1}立教大学, ^{*2}NECソフト, ^{*3}神戸大学

FMOスキームに基づいた励起状態解析法の新規実装

第3回分子科学討論会(2009.9)(名古屋)

(毒性部)

- Hirabayashi, Y.

Benzene-induced toxicity is based on the AhR-mediated hematopoietic stem cells
(ベンゼン誘発毒性は造血幹細胞におけるアリールハイドロカーボン受容体に起因する)

Benzene 2009: Health Effects and Mechanisms of Bone Marrow Toxicity, Implication for t-AML, and Action framework, (2009.9) (Munich, German)

- Kitajima, S., Kanno, J.

Percellome Toxicogenomics Project toward Informatics Stage for Predictive Toxicology(インフォマティクス構築に向けた毒性予測のためのPercellomeトキシコゲノミクスプロジェクト)

ICT-TIES 2009, the Joint Symposium of 5th International Conference on Toxicogenomics (ICT) and 2nd Toxicogenomics Integrated Environmental Science (TIES) 2009. (2009. 9)(韓国, ソウル)

(薬理部)

- 佐藤 薫, James E. Goldman*, 大野泰雄

*コロンビア大学病理部

生後初期脳の in vitro リスクアセスメントシステムの確立

第32回日本神経科学大会 (2009.9) (名古屋)

- 高木淳平*, 栗脇淳一, 佐藤 薫, 鈴木岳之*

*慶応大学薬学部

SSRI の培養アストロサイトグルタミン酸トランスポーターに対する作用

第32回日本神経科学大会 (2009.9) (名古屋)

- 諫田泰成

bFGF-induced migration of neural progenitor cells via reactive oxygen species
(bFGF刺激による活性酸素を介した神経前駆細胞の遊走)

EMBO2009 meeting (2009.9) (アムステルダム, オランダ)

- Kojima, H.

Validation of innovative methods for safety testing: drawbacks and advantages of Japanese validation studies(新規安全性試験法のバリデーション: 日本のバリデーション研究の長短所)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9) (Rome, Italy)

- Ono, A., Takeyoshi, M.*¹, Bremer, S.*², Jacob, M.*³, Laws, S.*⁴, Sozu, T.*⁵, Kojima, H.

*¹Chemicals Evaluation and Research Institute, *²European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), *³European Food Safety Authority, *⁴U.S. Environmental Protection Agency, *⁵Osaka University

The international validation study for the ER alpha STTA antagonist assay using HeLa9903(HeLa9903細胞を用いるER α STTAアノタゴニストアッセイの国際バリデーション研究)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9) (Rome, Italy)

- Kojima, H., Matsui, T.*¹, Kohara, A.*¹, Yoshida, A.*², Nakamura, Y.*³

^{*1}National Institute of Biomedical Innovation, ^{*2}Health Science Research Resources Bank, ^{*3}RIKEN BioResource Center

GCCP initiatives in Japan (日本における良質な細胞培養技術の首唱)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Allen, D.^{*1}, Deal, F.^{*1}, Ceger, P.^{*1}, Gordon, J.^{*2}, Pazos, P.^{*3}, deLange, L.^{*3}, Bremer, S.^{*3}, Nakamura, M.^{*4}, Kojima, H., Ono, A., Tice, R.^{*5}, Stokes W.^{*6}

^{*1}ILS, Inc./NICEATM(National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods), ^{*2}Xenobiotic Detection System, Inc., ^{*3}European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), ^{*4}Hiyoshi Corp., ^{*5}NTP/National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), ^{*6}NICEATM/NTP/NIEHS

Testing of coded substances for a multi-phases international validation study of an estrogen receptor (ER) transcriptional activation (TA) assay (エストロゲン受容体転写活性試験の他段階国際バリデーション研究のための被験物質のコード化方法)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Kojima, H., Iijima, M.^{*1}, Matsunaga, K.^{*2}, Sasa, H.^{*3}, Itagaki, H.^{*3}, Okamoto, Y.^{*4}, Nishiyama, N.^{*5}, Mita I.^{*6}, Washida, J.^{*7}, Masuyama, K.^{*7}, Onodera, H.^{*6}, Masuda, M., Ohno, Y.

^{*1}昭和大, ^{*2}藤田保健衛生大学, ^{*3}株式会社 資生堂, ^{*4}株式会社 コーセー, ^{*5}花王株式会社, ^{*6}医薬品医療機器総合機構, ^{*7}厚生労働省

Review of an alternative to animal testing for safety evaluation of cosmetic ingredients using Quasi-drug (医薬部外品の安全性評価における動物実験代替法の再調査)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Wind, M.^{*1}, Blakey, D.^{*2}, Kojima, H., Kreysa, J.^{*3}, Stokes, W.^{*4}

^{*1}U.S. Consumer Product Safety Commission, ^{*2}Health Canada, ^{*3}European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), ^{*4}NICEATM(National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods)/National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)

What is the international cooperation on alternative test methods (ICATM) and what is its role? (動物実験代替法国際協調組織とその役割)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Kojima, H.

JaCVAM's role in the 3Rs and ICATM (動物実験の3Rsと動物実験代替法国際協調組織における日本動物実験代替法検証センターの役割)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Kojima, H.

Recent progress and future directions at JaCVAM (日本動物実験代替法検証センターの最近の動向と今後の方向性)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Inoue, T., Masuda, M., Akita, M.^{*}, Kojima, H., Ohno, Y.

*Kamakuwa Woman Univ.

JaCVAM statement on new alternative to animal testing (新規動物実験代替法のための日本動物実験代替法検証センターの声明)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Takeyoshi, M.^{*1}, Kojima, H., Omori, T.^{*2}, Sozu, T.^{*3}, Yoshimura, I.^{*4}

^{*1}Chemicals Evaluation and Research Institute, ^{*2}Kyoto University, ^{*3}Osaka University, ^{*4}Tokyo University of Science

Validation study for non-radioisotopic local lymph node assay based on BrdU incorporation (LLNA-BrdU) (BrdU結合による非放射線局所リンパ節試験のバリデーション研究)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Kojima, H., Ando, Y.^{*1}, Yamaguchi, Y.^{*2}, Kosaka, T.^{*3}, Suzuki, T.^{*4}, Yuasa, A.^{*5}, Watanabe, Y.^{*6}, Shinoda, S.^{*7}, Idehara, K.^{*8}, Yoshimura, I.^{*9}, Miyaoka, E.^{*9}, Ishiyama, K.^{*9}, Kato, M.^{*10}, Omori, T.^{*11}

^{*1}Aiken Co., Ltd., ^{*2}KOBAYASHI Pharm. Co., Ltd., ^{*3}Inst. of Environmental Toxicology, ^{*4}Fancl Res. Inst., ^{*5}FUJIFILM Corp., ^{*6}Maruishi Pharm. Co., Ltd., ^{*7}Drug Safety Testing Center Co., Ltd., ^{*8}Daicel Chemical Industries, Ltd., ^{*9}Tokyo Univ. of Science, ^{*10}Japan Tissue Engineering Co., Ltd., ^{*11}Kyoto Univ.

Validation of LabCyte EPI-MODEL24, an in vitro assay for detecting skin irritants (皮膚刺激性を検出するためのin vitro試験法、LabCyteのバリデーション)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Yamamoto, N.^{*1}, Hirano, K.^{*1}, Kato, M.^{*2}, Hata, K.^{*2}, Horiguchi, M.^{*2}, Taniguchi, K.^{*1}, Kojima, H.

^{*1}Fujita Health University, ^{*2}Japan Tissue Engineering Co., Ltd.

Cell surface marker of corneal epithelium stem cells and culture (角膜上皮幹細胞の培養と細胞表面マーカー)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Lowther, D.^{*1}, Wind, M.^{*2}, Stokes, W.^{*3}, Barroso, J.^{*4}, Zuang, V.^{*4}, Amcoff, P.^{*5}, Kojima, H., Prinsen, M.^{*6}, Tice, R.^{*7}, Allen, D.^{*8}, McCall, D.^{*9}

^{*1}U.S. Food and Drug Association, ^{*2}U.S. Consumer Product Safety Commission, ^{*3}NICEATM(National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods)/National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), ^{*4}European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), ^{*5}OECD, ^{*6}TNO Nutrition and Food research Institute, ^{*7}NTP/NIEHS, ^{*8}ILS, Inc./NICEATM, ^{*9}U.S. Environmental Protection Agency

International acceptance of in vitro alternative ocular safety testing methods: the isolated chicken eye (ICE) test method (Draft OECD TG 438) (in vitro代替眼刺激性試験の国際的受け入れ: 摘出鶏眼球試験 (ICE)試験法, OECDテストガイドライン案 438)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Merrill, J.^{*1}, Wind, M.^{*2}, Stokes, W.^{*3}, Barroso, J.^{*4}, Zuang, V.^{*4}, Amcoff, P.^{*5}, Kojima, H., Jacobs, A.^{*1}, McCall, D.^{*6}, Allen D.^{*7}, Tice, R.^{*8}

^{*1}U.S. Food and Drug Association, ^{*2}U.S. Consumer Product Safety Commission, ^{*3}NICEATM(National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods)/National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), ^{*4}European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), ^{*5}OECD, ^{*6}U.S. Environmental Protection Agency, ^{*7}ILS, Inc./NICEATM, ^{*8}NTP/NIEHS

International acceptance of in vitro alternative ocular safety testing methods: bovine corneal opacity and permeability (BCOP) test method (Draft OECD TG 437)((in vitro代替眼刺激性試験の国際的受け入れ: 摘出ウシ角膜試験(BCOP)試験法, OECDテストガイドライン案437)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Hayashi, M.^{*1}, Uno, Y.^{*2}, Honma, M., Schectmann, L.^{*3}, Tice, R.^{*4}, Corvi, R.^{*5}, Morita, T., Asano, N.^{*6}, Kojima, H.

^{*1}Biosafety Research Center, Foods, Drugs and Pesticides (BSRC), ^{*2}Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation, ^{*3}Innovative Toxicology Consulting, LLC, ^{*4}National Toxicology Program, National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), ^{*5}European Center for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), ^{*6}Osaka Jogakuin College

In vivo comet assay: Update on the on-going international validation study (in vivo コメットアッセイ: 進行中の国際バリデーション研究の動向)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Honma, M., Kojima, H., Morita, T., Uno, Y.^{*1}, Asano, N.^{*2}, Nakajima, M.^{*3}, Corvi, R.^{*4}, Tice, R.^{*5}, Schectman, L.^{*6}, Hayashi, M.^{*3}

^{*1}Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation, ^{*2}Osaka Jogakuin College, ^{*3}Biosafety Research Center, Foods, Drugs and Pesticides (BSRC), ^{*4}European Center for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), ^{*5}National Toxicology Program, National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), ^{*6}Innovative Toxicology Consulting, LLC

Intenational validation study of the in vitro alkaline comet assay (in vitro コメットアッセイの国際バリデーション研究)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Kojima, H., Arai, S.^{*1}, Hojyo, M.

^{*1}Hatano Research Institute, Food and Drug Safety Center

Adequate conditions for performance of comet assay using 3-dimensional human epidermal model (3次元培養表皮モデルを用いたコメットアッセイの適切な実施時条件)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9)
(Rome, Italy)

- Stokes, W.^{*1}, Wind, M.^{*2}, Matheson, J.^{*3}, Jacob, A.^{*3}, Casati, S.^{*4}, Kojima, H., Allen, D.^{*5}, Burns, T.^{*5}, Salicru, E.^{*5}, Strickland, J.^{*5}, Tice, R.^{*6}

^{*1}NICEATM(National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods)/National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), ^{*2}U.S. Consumer Product Safety Commission, ^{*3}U.S. Food and Drug Association, ^{*4}European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), ^{*5}ILS, Inc./NICEATM, ^{*6}NTP/NIEHS

Internationally harmonized performance standards (PS) for the murine local lymph node assay (LLNA)(局所リンパ節試験の実施基準における国際協調)

7th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009.8-9) (Rome, Italy)

(病理部)

- Nishikawa, A., Nohmi, T.

***In vivo* approaches to simultaneously assess both genotoxicity and carcinogenicity of food additives (食品添加物の遺伝毒性および発がん性を同時評価する*in vivo*アプローチ)**

VII World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences (2009. 8-9) (Rome, Italy)

- Inoue, K., Yoshida, M., Takahashi, M., Ozawa, S. ^{*1}, Nemoto, K. ^{*2}, Degawa, M. ^{*2}, Nishikawa, A.

^{*1}Genetics, Sch. Pharmacy, Iwate Med. Univ., ^{*2} Sch. Pharm. Sci., Univ. Shizuoka

Involvement of cell proliferation and oxidative DNA damage in the process of hepatocellular hypertrophy induced by agricultural chemicals(農薬により誘発された肝細胞肥大の発生過程における細胞増殖と酸化的DNA損傷の関与について)

46th Congress of the European Societies of Toxicology (2009. 9) (Dresden, German)

(変異遺伝部)

- 本間正充

遺伝毒性不純物のリスク管理の考え方

医薬品評価フォーラムー国際的に未解決な毒性試験の諸問題ー(2009.9)(東京)

- 能美健彦

Development of gpt delta transgenic mice and rats for genotoxicity assays(遺伝毒性試験用gpt deltaトランスジェニックマウス, ラットの開発)

The 5th International Congress of Asian Society of Toxicology (2009.9) (Taipei, Taiwan)

- 本間正充

The new ICH guidance on genotoxicity testings(遺伝毒性試験における新しいICHガイダンス)

International Conference on Environment, Occupational, & Lifestyle Concerns – Transdisciplinary Approach –(2009.9) (Bangalore, India)

- Grúz, P., Shimizu, M. ^{*}, Usui, Y. ^{*}

^{*}東京医療保健大学

Origins of age-related DNA damage and dietary strategies for its reduction(加齢に伴うDNA損傷の起源とその軽減のための食事戦略)

Strategies for Engineered Negligible Senescence (SENS), Fourth Conference, Queens' College, Cambridge(2009.9) (Cambridge, England)

(総合評価研究室)

- Ono, A., Takeyoshi, M. ^{*1}, Bremer, S. ^{*2}, Jacobs, M. ^{*3}, Laws, S. ^{*4}, Sozu, T. ^{*5}, Kojima, H.

*¹Chemicals Evaluation and Research Institute, *²ECVAM, *³European Food Safety Authority, *⁴U.S. EPA, *⁵Osaka University

The International Validation Study for The ER alpha STTA Antagonist Assay Using HeLa9903. (HeLa9903を用いたER α STTAアンタゴニストアッセイの国際バリデーション研究)

The 7th World congress on alternative & animal use in the life sciences(2009.9) (Rome, Italy)

6. レギュラトリーサイエンス関連国際会議報告

(生薬部)

- 袴塚高志

Western Pacific Regional Forum on Harmonization of Herbal Medicines Subcommittee-III (生薬・薬用植物に関する国際調和のための西太平洋地区討論会 Subcommittee-III会議)

中国, 大連 (Dalian, China), 2009年9月23日～24日

天然薬物の副作用の実際と, 各国の有害事象報告システムについて紹介し, 天然薬物の安全性確保に関する対策と国際協力体制について討論した.

(療品部)

- 中岡竜介

ISO/TC 150 (Implants for surgery) Meeting and ISO/TC 150/SC 7 (Tissue-engineered medical devices) Meeting
(国際標準化機構/技術委員会 150(外科用インプラント)総会及び国際標準化機構/技術委員会 150/分科委員会 7(再生医療機器)会議)

京都, 2009年9月6-11日

外科用インプラントに関する様々な事項の国際標準化を行う会議に出席して, その討議に参加した. 特に, 参加者が国際幹事を担うSC7へはその討議を議長とともに取り仕切る立場で総会の事前打合せ会議と本会議の両方に出席し, 再生医療機器を取り囲む現状とその標準化の必要性についての議論を行った.

- 迫田秀行

ISO/TC 150 (Implants for surgery) Meeting and ISO/TC 150/SC 7 (Tissue-engineered medical devices) Meeting
(国際標準化機構/技術委員会 150(外科用インプラント)総会及び国際標準化機構/技術委員会 150/分科委員会 7(再生医療機器)会議)

京都, 2009年9月6-11日

外科用インプラントに関する様々な事項の国際標準化を行う会議に出席して, その討議に参加した. 特に, 参加者が国際幹事を担うSC7へはその討議を議長とともに取り仕切る立場で総会の事前打合せ会議と本会議の両方に出席し, 再生医療機器を取り囲む現状とその標準化の必要性についての議論を行った.

- 中岡竜介

ISO/TC 194 (Biological evaluation of medical devices)/SC 1 (Tissue product safety) Meeting
(国際標準化機構/技術委員会 194(医療機器の生物学的評価)/分科委員会 1(組織由来製品の安全性)会議)

米国 メリーランド州 Rockville (FDA), 2009年9月22 - 25日

ISO/TC150/SC7から移行した文書案である「再生医療製品中のヒト由来細胞のリスクマネージメント」に関する国際標準化文書作成のための討議を行うとともに, 再生医療分野に関する情報収集や各国関係者との意見交換を行った.

(安全情報部)

○ 森田 健

第3回日中韓における化学物質管理に関する政策ダイアログ及び第3回日中韓GHS専門家会合

中国, 北京, 2009年9月14～16日

日本, 中国及び韓国の政府関係者及び学識経験者によるGHS専門家会合では, 日中韓における化学物質の有害性分類システムの比較検討作業等がなされ, また, 化学物質政策ダイアログでは, 化学物質管理の最新動向に関する情報・意見交換や今後の三カ国での連携・協力の進め方について議論がなされた.

(薬理部)

○ 小島 肇

ICCR-3 (化粧品規制協力国際会議)

東京, 2009年9月9日

米国, 日本, 欧州連合及びカナダ化粧品規制当局からなる国際的グループであるICCRの第3回会議に出席し, 動物実験代替法の国際活動について報告をした. 本会議において, 活動への協力, 調整, 支援の継続が討議された.

(病理部)

○ 吉田 緑

OECD Expert Group Meeting on the draft Guidance Document for the Derivation of an Acute Reference Dose (OECD主催急性参照用量のガイダンスドキュメント案に関する専門家会議)

スイス・ジュネーブ, 2009年9月14日から平成21年9月15日

OECDが主宰した農薬の急性摂取量参照用量(Acute reference dose, ARfD)の専門家会議に出席して, テストガイドイランプログラムの国際コーディネイト専門家グループに提出するガイダンスドキュメント作成について討議を行った.

○ 吉田 緑

**2009 Joint FAO/WHO Meeting on Pesticides and Residue (JMPR)
農薬・作物残留の世界食糧機関/世界保健機関2009年合同会議**

スイス・ジュネーブ, 2009年9月16日から平成21年9月25日

農薬および作物残留に関する国連食糧農業機関/世界保健機関合同会議(JMPR) 2009のWHO主催の毒性部門に出席した. 本年は, 新規および新しいデータが提出された8剤の農薬についてリスク評価を行い, 1日許容摂取量(ADI)および一部の農薬については急性参照用量(Acute reference dose)の設定を行った.